

[28年度] 德育推进フォーラム

平成28年10月22日(土) (於) 佐世保市体育文化館コミュニティセンター

今回のテーマは、～5年目を迎えた今、德育は進んでいますか？～(本音でトーカー)であります。家庭代表、地域代表、会社代表、大学院生代表、大学生代表として5名の方にご登壇いただき、まずは、佐世保市内の事業所や学校での取り組みをVTRでご覧いただき、その後に、其々の方から「德育」についての持論や取り組み、そして今後に向けてどのようなことが大切なのかをお話ししていただきました。

地元中学校での取り組み、家庭内での役割分担、経営者としてのモットー、大学生の現状、茶道を通して德育などの発言の中から「幸勤」「しつけ」「叱りかけた」「ごめんなさい」「日本人らしさ」「守破離」などたくさんのキーワードが出ました。そのキーワードをもとに、登壇者がお互いに意見を求めたり、会場に問い合わせたりしながら、本音での座談会が展開されました。



座談会

家庭代表 佐世保德育推進会議会員 小林 健一
(佐世保市PTA連合会副会長)



今回の德育推進フォーラムの座談会に参加し、他の登壇者の方と意見を交わすなかで感じたのは、やはり德育は1日にしてならず、人としての成長過程を踏まえた段階的な教え、導きが必要なのでは？ということでした。

人はどのようななかにあっても、必ず社会に属しています。生まれた子供は、まず家庭という社会に、そして地域社会に少しずつ溶け込みながら、身近な小さい社会から不特定多数の大きな社会へ徐々に人の関わる範囲が広くなっていきます。

そのようななかで時期を捉えて、例えば幼児期においては、可能な限り自分のことは自分でできるよう、少年期からは学校生活のルールを守り、家族や友達など身近な人を思いやる心が育つような、そして社会人・地域住民として信用・信頼できるような人格形成に向けて、社会全体でサポートするような取組みが必要だと感じました。

世の中の有り様が変わっていくなかで、人間関係が希薄になってきていると言われていますが、これから社会はむしろ人ととの結びつきが必要になってくると思います。

遠い道のりかもしれません、これから德育はますます重要になってくるのではないかでしょうか？

地域代表 佐世保德育推進会議会員 指山 立
(佐世保青年会議所理事長)



「德育推進のまちづくり宣言」から5年目を迎えた訳ですが、市内の小学校を訪れるとき子供たちは元気に挨拶をしてくれますし、学校内の至る所に「一徳運動」という文字があります。こうしてみると德育は着実に推進されていると感じます。子供たちが育つコミュニティは主に学校、家庭、地域です。今後はこの運動を、実際に子育てをする親世代へどのように浸透していくか、という点が課題になってくるのではないかでしょうか。德育の定義は人それぞれだと思いますが、私の中での德育とは「他人を思いやる」「礼節を重んじる」など、かつての美德を持ち合わせた「美しい日本人」を育てる教育であると思います。ひと昔前までは悪い意味で「ノーと言えない日本人」などと言われていましたが、東日本大震災を境に外国の方から「日本人は美しい」と称賛されるようになったことで、最近ではこの民族が元来持っている素晴らしいしさに我々日本人も気づいてきたのではないかと感じます。今こそ、佐世保市全体で德育に取り組み、全国へと発信していくことが必要であると感じています。

企業代表 佐世保德育推進会議会員 川野 知文
(佐世保商工会議所青年部会長)



今年度、佐世保市德育推進会議に参加し10月に開催された德育フォーラムのパネリストとして携われて、改めて德育を見つめ直す事が出来ました。世代間での德育における進歩状況、そもそも德育の定義等、今後どうするのか？何を目指すのか？解決しないといけない問題は幾つかあるように感じました。しかしながら佐世保市が定義する德育とは、利他主義をさりげなく当たり前にできる佐世保市民を増やして行く活動ですので、その動きは少しずつはありますが、佐世保市に浸透してきていると実感できました。私自身も、決して利己主義にならず利他の精神で微力ではありますが、佐世保に係わる人々が、胸を張って「佐世保は德育の街」だと言えるように努力していきたいと感じました。

学生代表

長崎国際大学大学院 博士課程3年 池田 拓朗



今回「德育推進フォーラム」におきまして、座談会の登壇者の一人として参加させて頂く機会を得ましたことに感謝申し上げます。現代の日本の若者は、他者への思いやりの心や、自制心、規範意識が低下している傾向にあると文部科学省は指摘しています。個人個人の人間関係の希薄化が進むとともに、さまざまな社会状況のなかで地域社会

の連帯性も弱まりを見せているのが現状です。

だからこそ大学という教養を広げるとともに自己研鑽を図る場において、社会人の一步手前にある学生たちに他者を思いやる気持ちや、相手の立場に立って考えることを身につけることは意義があると思います。各々の学生が普段大学で受ける講義や、所属するゼミでの取り組みや研究のなかで、自分自身を見つめ直し、他人の良さを認めることができるようになるとともに、自分の研究や活動が社会や地域にいかに貢献できるのかを考えさせることは有益であると考えられます。

私も学生とともに学び、德育の重要性を発信していくことで、社会に貢献していきたいと思います。

学生代表

長崎国際大学3年 在津 英晟



今回「德育推進フォーラム」での座談会での登壇者として参加する機会を頂きましたことに感謝申し上げます。

私の在籍する長崎国際大学では、「いつも、人から。そして、心から。」をモットーに、人間尊重の理念を実現するためにホスピタリティ精神を学び、身に付けることを重視しています。そのホスピタリティ精神を表現し、実践する方法として、全学教育の1つに取り入れられているのが、茶道です。茶道の授業では薄茶・濃茶点前といったお点前だけでなく、禅語や茶花などの意味などを学びます。この授業を通して、私たち大学生は、相手への気遣いや思いやりの心を育むとともに、自分自身と向き合うことが出来、自分を磨く一つのきっかけとなっています。

この学びを私たち大学生が日頃から意識し、続けていくことが重要です。それが結果として、德育が次世代へと繋がっていくことになるのではないかでしょうか。

最後に、これから社会に出る一人として、大学で学んだことを活かして貢献できるよう努力していきたいと思います。

まとめ

佐世保德育推進会議会員 下釜 豊広



私たちが、代々受け継がれていくはずの“日本人らしさ”や“思いやり”的気持ちが大切であることは皆さんからも話がありました。“他人を思いやる”という気持ちちは「あいさつ」をはじめとする「しつけ」から育つのではないかでしょうか?

ICT化の進歩は、自宅に居ても容易に情報が入手でき、目に見えない相手とのやり取りを可能にする反面、コミュニケーション不足を引き起こし、他人との関わりを苦手にする。個人や個性の尊重は、価値観の多様化を作り、“自分は自分”という誤解を生んでいる。実力主義の今日は、先輩後輩といった人間関係をも無いものにしてしまう。

時代の変化は、良い面と良くない面がありますが、大切なことは、そこに“ルール”や“マナー”などの「秩序」が必要だということです。

現在の幼稚園から高等学校までの教育現場では、「德育」が推進されているので、これから子供達は大丈夫かもしれません。むしろ、我々30~50代の子育て世代が、子供の頃に受けた「しつけ」を思い出して実践すること、また、60代以上の諸先輩方は昔のように、今一度、自分にも自分以外にも関わりを持つことを意識して、“当たり前のことは当たり前なんだ”と教えて頂ければ、より良い佐世保になると感じました。



(朝長則男市長あいさつ)



(マナー講座)



(佐世保市歌合唱)



(PTA会長代理)

座談会についてお答えください。

- 本音が聞けた座談会だった。学生のしっかりした考えに感心させられた。
- 具体的な事例をもとにしつけや德育に対する思いを語り合う中で、大人も子どもも言行について見つめ直す機会になったと思う。
- 生きていく上で大切なことを学ばせていただき、学生の方の意見も親としてどうあらねばならないか見つめる時間をいただきました。

10月22日(土)304名が参加して開催された德育推進フォーラム。皆様からいただいた感想の一部を掲載いたします。

「德育推進」が広がるためにどのような手立てをとればいいと思いますか？

- 大人も子どももまずは所属する組織体で何かに取り組むところから始めると広がりが出ると思う。
- 子どもを教育するのはもちろんだが、若い親に対する教育をしないと無理だと思う。
- 日々的なキャンペーンを打つよりも時間や手間をかけ、焦らずに一歩いっぽ進めるしかないと思う。

本日の「德育推進フォーラム」についての感想をお聞かせください。

- 各世代の人のいろいろな考え方、意見を聞いていい勉強になりました。マナー講座や園児の歌も聞いてとてもいい会だったと思います。
- 式が終了すると帰られる方が多く、残念に思う部分がありました。最後まで残るような工夫（内容）があればと思いました。
- 大変勉強になりました。市民として安心して暮らせる街に德育を広げていきたいと思います。

あなたの聞いて「徳」する話募集します!!

広報させぼ「德育通信」コーナーから、あなたが身の周りで見つけたり感じたりした「聞いたら心が温まる話」を募集します！

日常のほんの小さなうれしい出来事や、ぜひ皆さんに聞いてほしい德育に関するお話など、あなたの“聞いて「徳」する話”お聞かせください！

採用された方のお話は、広報させぼ「德育通信」コーナーに随時掲載させていただきます。

応募方法

応募用紙に必要事項と400字以内のお話を書き込み、佐世保德育推進会議事務局宛に送りください。FAX・E-mailでのご応募も受け付けております。また、ご質問・ご感想等もお待ちしております。応募用紙は佐世保德育推進会議事務局ほか、佐世保市のHP、社会教育課で配布しております。

ご不明な点はお気軽にご質問ください。

佐世保德育推進会議事務局

TEL/FAX (0956) 23-2856

E-mail sasebotokuiku@alpha.ocn.ne.jp